（６）福祉科

ア　現状

（ア）我が国の福祉科教育を取り巻く状況

近年，生活水準の向上に伴う健康への関心の高まりや生活様式・意識の変化により，国民の福祉ニーズは高度化，多様化するとともに著しく増大している。高齢者や障害のある人々へのよりきめ細かい介護サービスに対応できる専門的な知識と技術を有する人材の育成と確保が不可欠となっている。

高齢社会の到来に伴い，介護福祉士などの福祉に関する人材の養成に対応するため，平成 11 年３月告示の高等学校学習指導要領において新たに教科「福祉」が設けられた。

（イ）技術革新に対応した整備

対人福祉サービス，在宅福祉サービスの向上に対応するため，黒瀬高等学校福祉科においては，実習室の施設・設備の充実が必要である。

（ウ）福祉科における教育内容

福祉に関する学科においては次の内容について取り組んでいる。

利用者の主体的な選択を尊重する福祉サービスや在宅サービスの充実等の社会の要求に対応して，対人援助，地域福祉等に関する教育内容の充実を図っている。

また，ホームヘルパー研修や施設実習などの実践的･体験的学習を通して，総合的な知識と技術を習得させ，社会福祉の向上を図る実践的な能力・態度や社会福祉関連の職業に従事する者として必要な意識をもった人材を育成している。

さらに，高齢社会に対応し，地域福祉，コミュニケーション，生活の質を大切にした福祉サービスが実践できる人材を育成するため，介護福祉士等の資格取得に取り組んでいる。

（エ）生徒の進路状況

平成 20 年３月卒業者の進路状況を見ると,64.0%(16 人)が進学し,36.0%（９人）が就職している。進学した生徒のうち，68.8%（11 人）が福祉関係の大学等に進学し，就職した生徒のうち 77.8%（７人）が社会福祉施設や病院などの福祉関係に就職している。

また，介護福祉士の国家試験の合格率は増加傾向にあり，平成 20 年３月卒業者の合格率は， 72.0%（18 人）で全国平均合格率 51.3%を上回っている。

イ　課題

（ア）教育内容面の課題

福祉に関する学科においては，次の教育内容の改善・充実を図る必要がある。

ａ　社会の要請に応じた介護福祉士をはじめとする高度な資格取得のための教科・科目の内容・授業時間数の検討

ｂ　自立に向けた状態別の介護を行うために，適切な介護技術を用いて，安全に援助できる知識や技術を習得させるための教育内容の充実

ｃ　福祉に関する各科目で学習した知識や技術を統合し，介護計画の立案，介護サービスの提供等ができる能力を育成するための教育内容の充実

ｄ　介護技術の根拠となる人体の基礎構造や機能・心理及び介護サービスの提供における安全への留意点を理解し，心理的・社会的ケアの提供ができる能力を育成するための教育内容の充実

（イ）教育環境面の課題

ａ　介護福祉士をはじめとする高度な資格をもった福祉科教員の確保及び教員の資質の向上のための研修の実施

b　高度な資格取得に対応した介護技術等を身に付けさせるために，総合的な介護実習ができる施設・設備の整備

（ウ）継続学習への対応にかかわる課題

生徒の進路希望が多様化している現状を踏まえ，大学等や福祉関係施設との連携を図り，地域の介護施設や特別養護老人ホーム及び在宅サービス等における実習等を通して，地域の福祉に貢献する人材を育成するため，高等学校の教育課程を工夫する必要がある。

（専門高校・専門学科に求められる役割）

各学科を取り巻く現状及び課題をまとめると，本県の専門高校・専門学科において次のような人材の育成が求められる。

① 将来のスペシャリストの育成に必要な専門分野に関する基礎的・基本的な知識，技術及び技能の定着を図るとともに，さらに，ものづくりなどの体験的学習を通して実践力を育成する。

さらに，資格取得や競技会への挑戦等，目標を持って意欲的に学習に取り組むことを通して，知識，技術及び技能の定着を図り，実践力を高める。また，課題を探究し解決する力，自ら考え行動し適応していく力，コミュニケーション能力，協調性，学ぶ意欲，働く意欲，チャレンジ精神などの積極性・創造性等を育成する。

② 将来の地域産業を担う人材の育成という観点から，地域産業や地域社会との連携・交流を通じた実践的教育，外部人材を活用した授業等を充実させ，実践力，コミュニケーション能力，社会への適応能力等の育成を図るとともに，地域産業や地域社会への理解と貢献の意識を深めさせる。

③ 人間性豊かな職業人の育成という観点から，人と接し，自然やものとかかわり，命を守り育てるという職業教育の特長を生かし，職業人として必要な人間性を養うとともに，生命・自然・ものを大切にする心，規範意識，倫理観等を育成する。